

Can you speak

英語？中国語？韓国語？etc.？

1月26日、菅官房長官は、国土交通省からJR各社に、災害時の駅構内放送を原則10分おきに4か国語（日本語、英語、中国語、韓国語）で行うよう要請すると発表し、国土交通省が、新たなガイドラインを定めるとしました。

2018年の訪日外国人は、3119万人で過去最高を更新しました。
2019年は、3550万人超の予測で、2020年には、オリンピック・パラリンピックの開催で、4000万人を超える予測が立てられています。
そうした状況が予想される中、会社の外国人に対する対応は、万全と言えるのでしょうか？

職場での外国語教育は限界だ！

教育はというと、運輸所の営業訓練では、パワーポイントの英語例文を数問繰り返し喋るだけで、後は資料渡しておしまいです。お金をかけての教育ではありません。

職場の営業助役は、ほんの一部の助役を除いて、訓練受講者の前で、一言も英語で喋ることはありません。ある助役は、英語について乗務員から質問されると「俺に聞かれてもわかるか!？」と逆ギレ・開き直り！英語どころか日本語もままならぬ始末です。

職場での教育は、業務としてではなく、もっぱら「委員会」に委ね、会社としての教育は放棄した状態です。

ハード面も多くの問題続出！！

特に、新幹線車内で使用するアミボイス（外国語アプリ）は、車掌長、後部車掌のどちらか一方が携帯していて、車掌二人乗務で、業務が煩雑な時には、アミボイスをセットできない状態が発生します。さらに、そのアミボイスも音声が入らないなどのトラブルが続出しています。

以上のように、国が求める訪日外国人対応と、職場の教育、新幹線車内におけるハード面の不備など、まだまだ大きく乖離（かいり）があります。

しかし、訪日外国人4000万人超の2020年までには、あまりにも時間がありません。

従って、1年後に多くの車掌がスムーズに外国語が喋れるようになるとは到底思えません。

よって、私たちの何語か分からないようなヘッタクソな聞き取りにくい外国語放送より、聞き取りやすい自動放送装置への設備投資を、私たちは要求します。

会社は、早急に実現させること！

- ☆乗務員全員にポケット（超小型・音声翻訳機）を貸与すること！
- ☆新幹線車内の自動放送装置に異常時、列車遅延時、乗り継ぎ案内等の「英語、中国語、韓国語、etc.」を全て盛り込み、改修すること！